

平成23年度

新潟大学歯学部同窓会・総会
学術講演会

「子ども虐待時代」の子ども家庭福祉
—つながりの修復を目指して—

講師：

新潟大学歯学部口腔生命福祉学科
福祉学分野

鈴木 昭 教授

日時：平成23年4月23日(土)
午後5時30分から7時00分まで

場所：新潟大学
駅南キャンパス「ときめいと」講義室A
プラーカ1 2階

※駐車場はPLAKA地下駐車場（有料）をご利用ください。

- ・生涯研修カードをご持参ください
- ・会費は無料です

主催：新潟大学歯学部同窓会

● 講演要旨 ●

「子ども虐待時代」の子ども家庭福祉

—つながりの修復を目指して—

新潟大学歯学部口腔生命福祉学科
福祉学分野

鈴木 昭

同窓会の先生方には日ごろ新潟大学歯学部口腔生命福祉学科の教育、臨床、研究について力強いご理解とご支援を賜り改めて感謝申し上げます。講演に先立ち平成16年に創設され、23年3月に4期生を送り出すまでにいったつた私ども口腔生命福祉学科の現況と卒業生の活躍している進路等について紹介させていただきたいと思ひます。

依然として子ども虐待があとを絶ちません。子ども虐待の問題が照射しているのは、なにか。子どもにとって受難の続くこの時代の子ども家庭福祉について考えてみたいと思ひます。

人とのつながりが希薄になりつながりが切れたときに、福祉ニーズが発生します。つながりが切れた状態は、家庭や地域、社会にとどまらず個人における過去、現在、将来という時間軸上でも起ります。将来に不安をいだき、受け入れがたい過去を抱えたまま現在を生きていくことには、多くの要支援要素が随伴します。そうしたなかで現出してきている新しい福祉課題の一つがホームレス、孤独死・独居死、自殺、配偶者間暴力DV、高齢者虐待であり、これらと並ぶ子ども虐待の問題です。

今の時代をマクロ的にみていけば、社会の閉塞感、不安感が時代を覆い子ども虐待のそのすそ野を形成し、メゾ、ミクロ的には近隣やコミュニティ機能が低下し、家族のつながりが減弱したまま孤立し、子育てに希望を持ちにくい状況のなかで子ども虐待が増加し続けている、と考えられます。

子ども時代の豊かな情景を楽しかった具体的な心の原風景として持ち続けていることは、私たちの生きる力の源泉となっています。ところが子ども虐待は、この豊かなイメージを育む大切な子ども期を、人生の出自から根こそぎ奪ってしまう。子ども虐待が社会にとって容認できない理由は、この一点にあります。まさに「児童虐待が児童の人権を著しく侵害し、その心身の成長及び人格の形成に重大な影響を与える（児童虐待防止法第1条）」からです。

では、子ども虐待のないまちづくりをどのように進めていくか。子ども虐待死の事例では、地域社会とのつながりが乏しい事例が7割に及びます。子ども相談の現場では、虐待の拡大、深刻化を阻止するために早期発見・早期対応に追われていますが、これからはさらに家族の再統合、そして未然防止に力を注ぐ必要があります。

新潟市は、我が国における保育園発祥の地です。地域に支えられた子どもを大切にする文化が息づいています。明治23年、保育園を始めた赤沢鍾美は「徳不孤、必有隣（徳は孤ならず、必ず隣有り）」を座右の銘にしていました。子ども虐待のないまちづくりのヒントは、「必有隣」にある気がしています。「隣」は、「連なったもの」を表現する場合に使われる漢字だそうです。隣人は、文字どおり隣に住む人という意味になりますが、これからはこの字義を超えた隣人との交流の輪を広げていくことが重要になってきます。

人とのつながりが切れて深刻な事態に直面することが多い半面、付き合いを煩わしく感じ
てしまう、という今の私たちがかかえている両義性を解消するためには、向こう三軒両隣に
住む「隣人」に必ずしもこだわらず、たとえば匿名性を保ちながら参加できる自宅から離れ
た子育てサークルなどアソシエーション型の「新しい隣人」を受け入れていく工夫が求めら
れているからです。地域におけるこのようなつながりの修復、新しいゆるやかな人のつなが
りの形成が、子ども虐待のないまちづくりのうえで大きな推進力になると考えています。

鈴木 昭 教授 略歴

略 歴

- | | |
|----------|---|
| 昭和45年 3月 | 新潟大学人文学部哲学科（心理学専攻）卒業 |
| 昭和45年 4月 | 新潟県採用
村上・上越北・小出・上越南各保健所精神衛生相談員 |
| 昭和53年 4月 | 精神衛生センター（精神保健相談・調査研究・教育・研修）
地方精神衛生審議会答申に基づく精神障害者デイケア試行
高齢者精神健康度調査（痴呆性老人実態調査）
高齢者自殺予防事業（松之山プロジェクト）に従事 |
| 昭和61年 4月 | コロニーにいがた白岩の里児童援護第2係長 |
| 昭和62年 4月 | 中央児童相談所相談判定係長 |
| 平成 2年 4月 | 障害福祉課副参事（施設指導係長 育成係長）
社会福祉計画、新社会福祉計画策定等に従事 |
| 平成 6年 4月 | 障害福祉課参事（課長補佐）
コロニー再編改築、福祉のまちづくり条例策定等に従事 |
| 平成 8年 4月 | 新星学園長（知的障害児施設） |
| 平成10年 4月 | 身体障害者更生指導所長 |
| 平成12年 4月 | 緑風園長（知的障害者更生施設） |
| 平成13年 4月 | コロニーにいがた白岩の里所長
新潟県知的障害者福祉協会会長 |
| 平成14年 4月 | 中央福祉相談センター所長 |
| 平成17年 3月 | 新潟県退職 |
| 平成17年 4月 | 新潟大学歯学部口腔生命福祉学科
助教授採用（福祉援助学講座） |
| 平成18年 6月 | 同教授 |
| 平成19年 4月 | 同学科長 |

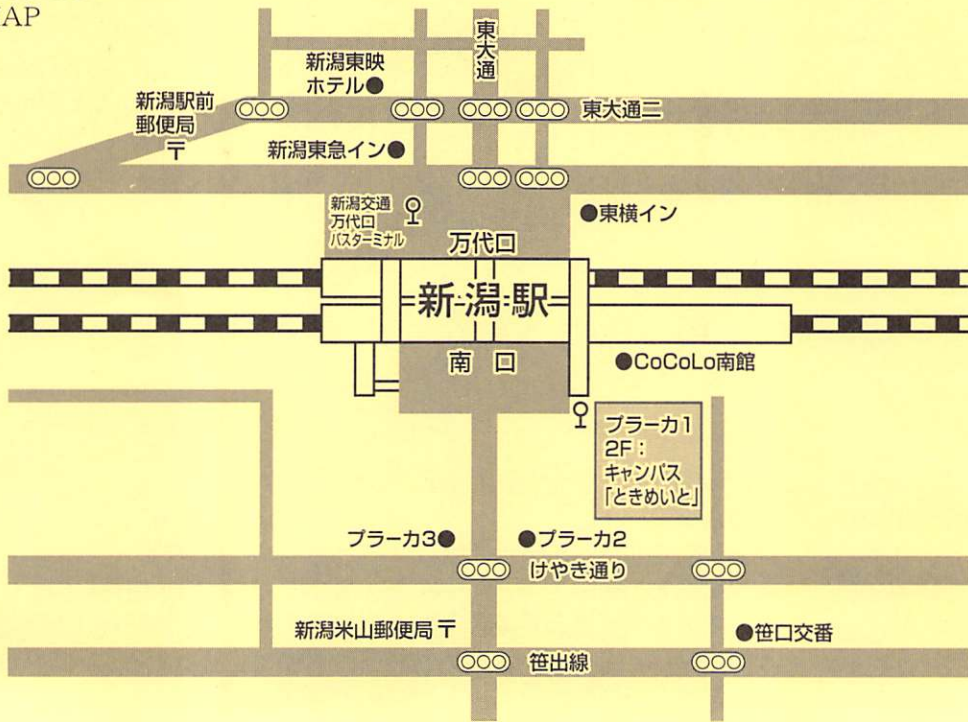
現 在

新潟市社会福祉審議会委員（児童福祉専門分科会児童養護部会長）
新潟市次世代育成支援対策行動計画推進協議会委員 他

所属学会

日本社会福祉学会、日本子ども家庭福祉学会、日本子ども虐待防止学会、
日本社会福祉教育学会、日本歯科医学教育学会、日本小児歯科学会

ACCESS
MAP



MEMO